

令和5年度特別養護老人ホームすなみ荘事業報告

事業概況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類になり、アフターコロナ時代を迎え、3年間様々な制約の中でサービスを提供せざるを得ない状況から一歩踏み出すことのできた年度となりました。

5月以降、コロナ渦前のサービスに少しでも近づけるよう検討を繰り返し、面会方法や施設活動など利用者やご家族の意に少しでも添えるような業務を進めてまいりました。職員に課していた制限についても必要に応じて見直しを行い、閉塞的な状況のもとでなく働きやすい環境のもとでサービスを提供するよう心掛けてきました。

しかしながら、新型コロナウイルスは終息したわけではなく、その後も流行を繰り返しており、標準予防策を徹底するとともに、PCR検査や抗原検査を行い感染の早期発見に努め、利用者にも協力していただき、定期的にワクチンを接種するなどして感染の予防対策を実施しました。

一方で、諸所の事情で職員の退職が続いたため、職員採用に向け取り組んでまいりましたが、採用に結びつかず、職員不足が顕著な状況になってしまいました。新型コロナウイルス対策もまだまだ油断を許さぬ状況のもと、職員不足も重なり、必要最低限なサービスしか提供できず、結果的に利用者には大変ご迷惑をお掛けすることとなりました。

このように、新型コロナウイルス対策や慢性的な職員不足への課題が解決したわけではありませんが利用者へのサービスを第一に考えながら、より良いサービスに繋ぐことができるよう職員一同取り組み、安定した運営や経営を目指してまいります。

施設運営の基本方針

誠実、確実、堅実をモットーに社会福祉に貢献し、安全で安心して利用できる福祉サービスの提供に努めました。また、個人情報の管理を徹底し、積極的な情報公開、情報提供を図り、信頼される福祉サービスの提供に努めました。

長期目標

- ・今後も進む少子高齢化、人口減少などの将来を踏まえた地域の福祉ニーズに応えられる、効率的で質の高いサービスの提供に努めました。
- ・多職種協働で科学的介護を推進し、利用者に適したサービスの提供に努めました。
- ・地域共生社会をめざし、地域に貢献・還元できるサービスの提供に努めました。

短期目標

- ・施設のポテンシャルを生かした安全で快適な運営に努めました。
- ・感染対策を取りつつコロナ後を見越した施設運営を念頭に、徐々にコロナ前の状態に戻れるよう努めました。
- ・感染対策に基づき利用者個々が役割や生きがいを持ち生活できるよう努めました。
- ・3M（ムダ・ムリ・ムラ）の排除及び5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を通じて働きやすい魅力ある職場づくりに努めました。
- ・安全で安心して過ごせるようリスク管理と予測した対応に努めました。

重点項目

(1) 安定経営に向けた取り組み

- ① 空床期間の短縮に努めましたが、新型コロナウイルス対応や職員不足対応を優先した結果、実質稼働率は83.2%にとどまり収入増につながりませんでした。
- ② LIFEを活用する体制が整わず、加算の取得による収入確保に繋げませんでした
- ③ 口腔ケア等の強化により誤嚥性肺炎による入院は減少しました。
- ④ 物価高の中、光熱水費の削減や支出内容の見直し等により経費の軽減に努めました。

(2) 利用者本位の介護の充実

- ① 利用者個々の状況を把握し個々のニーズに対応した、個別ケアの充実を図りました。
- ② 施設内部の研修等を通じて認知症の理解を深めることで対応力を高め、認知症ケアの充実に努めました。

(3) 防災対策の推進

- ① 万が一の災害に備えて利用者・職員の安全を確保し事業を継続的に実施できるようにBCP（事業継続計画）を策定しました。
- ② 地震・火事・水害等を想定した防災・防火訓練や防災設備器具の点検を実施しました。

(4) 職員の資質向上

- ① 研修委員会を中心に施設内勉強会を通じて知識・技術の習得・向上を図るとともに医療ケア研修など自ら資質向上を図れる組織風土の醸成に努めました。
- ② 優れた介護技術の提供だけではなく、利用者を不快にさせない、不満を持たせない、心のこもった利用者本位のサービスを提供できる職員の育成に努めました。

運営計画

※以下、（ ）内は前年度数値

1 各部門の取り組み

(1) 介護部門

- ① 新型コロナウイルス感染対策が2類から5類に移行されたのちも感染対策や行事内容の変更をしながら穏やかに、安心安全、快適な生活支援ができるよう努めました。
- ② 利用者、職員にとって負担が少なく快適な入浴支援に努めました。車椅子への移乗支援については一部リフターを活用し、職員の腰痛対策や利用者の安全に努めました。
- ③ 各会議、勉強会などにより感染対策に関する情報の共有をはかり、可能な範囲で利用者の個別支援に取り組みました。
- ④ 防災訓練を各階で実施し防災機器の取り扱いや避難方法の確認に努めました。
- ⑤ 生活備品、感染対策関連の備品管理を行い効率的、計画的に行いスムーズな業務が行えるよう取り組みました。

- ⑥ 高齢者虐待防止に対しては、倫理観の勉強会などを行い利用者、職員等の人権意識向上に努めました。また、身だしなみや接遇等について、独自の評価基準による自己評価を2回実施したところ、年間で5%の向上が見られました。

(2) 看護部門

- ① 医師の協力による、診療、健康管理、療養指導、医療ケア
 - ・医療ケアを担当する介護員2名の実地研修を行うが、新型コロナウイルス対応により年度内の研修終了には至らなかったが、引き続き継続します。
 - ・年1回実施した医療ケア研修等においてモデル人形を使用した喀痰吸引研修を利用者の実体に近い状況で安全に実施することができました。
- ② 看取り介護のシステム作り
 - ・多職種共同で看取り介護手順書の作成を行いました。
 - ・年2回、看取り介護に対するスタッフ教育を実施しました。
 - ・手順書に基づく施設の特性を活かした看取り介護の実施まではできませんでしたが手順書の周知は実施しました。
- ③ 職場環境の見直しとスタッフのモチベーション向上
 - ・必要に応じて随時、看護業務内容の見直しを行いました。
 - ・月1回の部署内カンファレンスや半年に1回のスタッフ面接を通して業務内に関する意見交換や個々のスタッフの意向や目標を意識し、業務改善や職場環境の改善に繋げることができた。

(3) 栄養部門

- ① 食中毒予防策の徹底、衛生管理計画をもとに職員教育、勉強会を実施し、衛生意識の強化を図りました。
- ② 災害時に備えた備蓄品の確保、管理に努めました。
- ③ 栄養マネジメントを強化し、加算取得に向けた体制を整えました。
- ④ 光熱水費の削減に努めました。
- ⑤ 食器の選択、盛付の工夫、適温給食によりおいしい食事の提供に努めました。
- ⑥ 安全且つ効率的な作業工程を確立した栄養士業務の構築に努めました。

(4) 生活相談部門

- ① 利用者、家族、入所待機者への介護保険等制度の情報提供をわかりやすく実施しました。
- ② 稼働率の向上には至りませんでした。パンフレットや画像を使用し施設の魅力を積極的にアピールし空床期間の短縮に努めました。
- ③ 入所等の文書負担軽減や手続きの効率化による業務負担軽減に取り組みました。
- ④ 自立支援・重度化防止という目標に沿った取り組みは実施しましたが、質の評価やデータ活用を行ったケアマネジメントは体制が整わず実施できませんでした。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対応を優先したため、地域との関係づくりが困難で、事業活動のアピールや選択される施設づくりはできませんでした。

- ⑥ リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化に向け取り組みました。
- ⑦ 感染対策を取りつつコロナ後を見越した家族への情報提供と連携に努めました。

(5) 事務部門

- ① 安全・効率的・快適に業務ができるよう施設内をラウンドし 3S 活動を意識した取り組みを心がけました。
- ② 光熱水費をはじめ日用品費や食材料費が高騰するなか運営に関する費用の内容を把握しコスト削減に努めました。
- ③ 事業所の顔である電話対応を丁寧な対応体ができるよう努めました。

2 利用者本位のサービスの実現

(1) 利用者が健康的に生きがいを持ちながら生活できるよう、日頃から心身のサポートに努めるとともに感染症対策を講じながら小規模での行事等を行い、楽しいひとときを提供できるよう取り組みました。尚、サロンや子育て支援活動、地域との交流は新型コロナウイルス感染症対策のため中止しました。

① 趣味・嗜好の支援

月	施設内外行事	内容	その他
4	花見会	ユニット別に感染対策をして実施	<ul style="list-style-type: none"> ・桜見物 ・ガーデニング ・施設内掲示品作成 ・勉強会 ・施設内飾り付け ・施設内 BGM ・脳トレ
5	ぽかぽかカフェ	感染対策の為中止	
7	そうめん流し	感染対策の為中止	
8	夏祭り	ユニット別に感染対策をして実施	
9	敬老会	ユニット別に感染対策をして実施	
10	施設内運動会	ユニット別に感染対策をして実施	
11	絆寿司・居酒屋	感染対策の為内容を変更して実施	
12	クリスマス忘年会	ユニット別に感染対策をして実施	
2	節分祭	感染対策の為中止	
3	抹茶会	ユニット別に感染対策をして実施	

② 施設内外行事の開催

a 施設内行事参加者延数（各階にてコロナ感染症対策のため規模を縮小し実施）

花見会	7人(15人)	調理実習	23人(66人)
夏祭り	52人(49人)	敬老会	38人(40人)
運動会	48人(50人)	にぎり寿司	57人(0人)
クリスマス会	33人(59人)	お屠蘇	24人(15人)
節分祭	0人(40人)	抹茶会	78人(59人)
周辺散策	12人(18人)	ふるさと巡り	3人(3人)
誕生会	273人(172人)		

b 施設外行事参加者延数（コロナ感染症対策で中止）

外出（ショッピング）	3人(0人)	須波小学校運動会	0人(0人)
三原保健福祉祭り	0人(0人)	四中運動会	0人(0人)
県立大学学園祭	0人(0人)	須波小学校学習発表会	0人(0人)
あいあいキッズ	0人(0人)	四中学習発表会	0人(0人)

③ 機能訓練

④ クラブ活動、レクリエーション等参加者延数

華道	107人(155人)	般若心経	133人(96人)
喫茶	109人(117人)	調理実習	31人(66人)
カラオケ	12人(70人)	その他	1445人(1933人)

⑤ 行事食（日光浴）の開催

0人

(2) 利用者が生きがいを持ち生活できるサービスを検討し提供しました。

① 個別性や自己決定権の尊重

② 気持ちに寄り添った介護

③ 笑顔で思いやりのあるコミュニケーション

④ 高齢者虐待の未然防止や身体的拘束廃止に向けた対策

a 身体的拘束者数

10人(11人)

b 身体的拘束廃止者数

10人(7人)

⑤ 羞恥心やプライバシーへの配慮

⑥ 権利擁護制度の活用を推進

a 成年後見制度利用者数

4人(5人)

(3) コロナ過でも心身ともに健やかな生活のサポートが送れるように努めました。

① 創意工夫したケア・マネジメントの実施

a サービス担当者会議

100人(158人)

b モニタリング

91人(98人)

c ケース会議

10回(16回)

② 医師の協力による24時間体制の健康管理、感染症対策、療養指導

a 利用者健診者延数

前期85人/後期73人

b 外診者延数

内科	12人(27人)	整形外科	8人(8人)
皮膚科	8人(0人)	その他	6人(25人)

c 往診者延数

皮膚科	19人(2人)	皮膚科	0人(0人)
-----	---------	-----	--------

d 入院者延数

胃瘻・経鼻空腸チューブ交換	24人(35人)	嚥下性肺炎	8人(19人)
心不全	3人(9人)	発熱	7人(0人)
その他	35人(21人)		

e 入院先延数

松尾内科病院	67人(78人)	須波宗斉会病院	4人(2人)
三原赤十字病院	0人(0人)	興生総合病院	1人(1人)
三原病院	0人(0人)	三原城町病院	0人(1人)
尾道総合病院	1人(0人)		

f 医療行為対象者数

経鼻栄養者	4人(7人)	胃瘻栄養者	8人(8人)
床ずれ対応者	2人(1人)	在宅酸素療法者	7人(11人)
インシュリン療法者	4人(4人)	口腔内吸痰	5人(8人)

g 感染症延発生者数

インフルエンザ	0人(0人)	感染性胃腸炎	0人(0人)
食中毒	0人(0人)	結核	0人(0人)
疥癬	0人(0人)	B型・C型肝炎	0人(0人)

h 予防接種延実施者数

インフルエンザワクチン	利用者	68人(66人)
	職員	65人(68人)
肺炎球菌ワクチン	利用者	2人(3人)
コロナ感染症ワクチン	6回目 利用者・職員	57人・2人
	7回目 利用者・職員	68人・10人

③ 尊厳や意向を尊重した看取り介護の実施

a 看取り介護実施件数 22人(13人)

④ 身体機能や日常生活動作の維持を目的とした個別プランによる機能訓練の実施

⑤ 日常生活動作(ADL)の維持・向上のための福祉機器や介護用品の検討・導入

a 福祉機器購入

車椅子	0台	リクライニング車椅子	0台
-----	----	------------	----

⑥ すべての利用者を対象にした歯科医師による技術的な助言や指導に基づいた口腔衛生管理

⑦ 日常生活動作(ADL)に応じた、食事形態、食事姿勢、介助方法の検討

a 食事形態 R6.3.31 現在 利用者61人、内入院者0人

普通食	18人(19人)	カット食	9人(10人)
ソフト食	17人(21人)	カット食(小)	4人(0人)
ミキサー食	2人(1人)	ゼリー食	1人(4人)
経管栄養食	10人(11人)		

b 療養食種 R6.3.31 現在 利用者61人、内入院者0人

常食	2人(4人)	胃潰瘍食	0人(0人)
腎心臓病食	44人(46人)	脂質異常症食	3人(3人)
糖尿病食	11人(12人)	腎臓病食	1人(1人)
肝臓病食	0人(0人)		

⑧ 栄養状態の維持・改善を目的とした経口摂取維持への取り組み

a 経口維持加算Ⅰ算定者延数 95人(63人)
 b 経口維持加算Ⅱ算定者延数 95人(63人)
 c 経口移行食加算算定者延数 0人(0人)
 d 再入所時連携加算算定延者 9人(9人)

⑨ 栄養状態の維持・改善

a 栄養ケア・マネジメント件数

784件(802件)

b モニタリング

1,079件(1,072件)

c 栄養リスク R6.3.31 現在

低リスク	13人(10人)	中リスク	32人(28人)
高リスク	16人(28人)		

⑩ LIFE へのデータ提出体制が整わずフィードバックの活用による PDCA サイクルの推進はなし。

⑪ 各委員会の適切な運営

a 各委員会等開催数

身体的拘束等防止委員会	45回(31回)	安全対策委員会	12回(12回)
健康管理委員会	11回(6回)	グループケア委員会	14回(17回)
褥瘡対策委員会	12回(12回)	自立支援(排泄)委員会	8回(7回)
入所検討委員会	12回(12回)	個人情報保護委員会	1回(1回)
サービス改善委員会	3回(2回)	安全衛生委員会(労基)	12回(11回)
給食衛生委員会	12回(12回)	高齢者虐待防止委員会	4回(3回)

(4) 利用者や家族の信頼を得るため、個人情報に配慮しつつ、各種相談へ随時対応し、サービスについては丁寧な説明のもと同意を得たうえで提供しました。

① 各サービス担当者による重要事項に関する説明責任の徹底

a 重要事項説明書見直し

1回(2回)

② 迅速できめ細やかな情報提供

③ 苦情・各種相談への誠意ある対応

a 苦情件数

利用者	0件(0件)	利用者家族	0件(0件)
-----	--------	-------	--------

b 市町村への報告件数

0件(0件)

④ コンプライアンス(法令順守)の徹底

⑤ 各種制度等の情報提供及び代行手続

3 リスクマネジメントの徹底

(1) 事故や災害などから利用者を守るため、必要な体制づくりや対策を継続的に行い、前年度よりヒヤリハット件数・重大事故件数ともに減少しました。

① 介護事故の防止に対する予測した対応

a ヒヤリハット・介護事故件数

ヒヤリハット	75件(88件)	事故	1件(4件)
--------	----------	----	--------

b 市町村への報告回数

1件(4件)

② 新型コロナウイルス感染症、食中毒等の発生防止に向けた標準予防策の徹底

③ コロナ禍の状況に応じた体制づくり

a 感染症対策訓練実施回数

1回

④ 定期的な防災教育や訓練、防災設備等の点検管理

a 防災訓練実施回数

模擬火災消火訓練	3回(3回)	土砂災害訓練	1回(1回)
----------	--------	--------	--------

- ⑤ 業務継続計画の検討
- ⑥ 備蓄品の確保
 - a 5日分の水と食料品の管理
 - b 適正な備蓄品の確保と管理
- ⑦ 交通安全教育と交通安全活動の実施
- ⑧ 防犯に係る安全確保の補完・強化
- ⑨ 個人情報の適切な管理
- ⑩ リスク発生時の速やかな報連相の実施
- ⑪ 各種リスクに対するマニュアルの作成と定期的な見直し
- ⑫ 各種記録の徹底

4 地域貢献・地域交流

(1) コロナ禍でしたが施設外での会議、行事等への出席や受け入れは可能な限り行いました。また感染対策を講じたうえで面会を実施し、広報誌等で事業活動の様子を紹介しました。

- ① 事業所活動の情報公表
 - a 年1回の広報誌発送
 - b 介護サービス情報公表システムへの登録と情報提供
- ② 地域ニーズの収集や検討及び解決に向けた活動
 - a 地域団体会議への参加回数 3回(2回)
 - ・須波連合町内会地域福祉ネットワーク会議

③ 地域との交流

a 地域行事参加者延数

須波小学校運動会	0人(0人)	四中運動会見学	32人(0人)
須波小学校学習発表会	0人(0人)	県立大学学園祭	0人(0人)
四中学習発表会	0人(0人)	あいあいキッズ	0人(0人)

※あいあいキッズにクリスマスの記念品贈呈

b すなみ荘受け入れ者延数

実習生	16人(4人)	面会者	1108人(295人)
-----	---------	-----	-------------

c 家族・地域参加者数

敬老会(縮小実施)	0人(0人)	餅つき(中止)	0人(0人)
夏祭り(縮小実施)	0人(0人)	節分祭(中止)	0人(0人)

d 地域活動への職員派遣回数 1回(2回)

- ・民生委員・児童委員勉強会
- 非常災害時の訓練の受入れ

④ ボランティア団体の受け入れ

a ボランティア受け入れ者延数

ボランティア	0人(0人)
--------	--------

⑤ 家族会での情報提供

a 家族会出席者延数

家族	0人(0人)
----	--------

⑥ 地域住民の相談受付

5 魅力ある職場づくり

(1) 施設内研修や計画的な資格取得などにより人材育成を促進し、職員の働く意欲を高めることによって組織力の強化に努めました。

- ① エルダー制度を取り入れ業務上の不安解消や人材育成を行う
- ② 目標管理制度やキャリアパスに関する取組みによる人材育成

a 資格取得者数

オレンジアドバイザー	0人(0人)	認定特定行為業務従事者	0人(3人)
------------	--------	-------------	--------

- ③ マニュアルに基づく統一した内容による新任職員研修の実施

a 新人研修受講者数

2人(4人)

- ④ 計画的な職場内外研修による知識・技術の向上

a 施設内勉強会

身体的拘束防止	2回(2回)	感染症予防	1回(2回)
高齢者虐待	2回(2回)	介護事故防止・発生時対応	2回(3回)
医療ケア	1回(2回)	看取り介護	2回(2回)
職員心得	1回(2回)	床ずれ	1回(1回)
交通安全	4回(3回)	認知症	2回(2回)
個人情報とプライバシー	1回(1回)	苦情	1回(1回)
口腔ケア	2回(1回)	BCP	1回(-)

b 外部講師受入

新型コロナウイルスの影響で外部講師を受け入れることができませんでしたが、職員が講師になり内部研修を開催しました。

c 外部研修参加者

14人(13人)

d オンライン研修参加者

4人(23人)

- ⑤ 認知症介護基礎研修の受講を支援

a 認知症介護基礎研修

0人(0人)

- ⑥ 自己啓発援助への積極的な支援

a 資格取得者数

介護福祉士	0人(0人)	介護支援専門員	0人(0人)
-------	--------	---------	--------

- ⑦ 待遇の向上

- ⑧ 好感の持てる挨拶の徹底

(2) 職員がモチベーションを維持しながら楽しく働くことができるよう採用活動等行いましたが、面接希望者が少なく面接後の採用に繋がらない状況もあり慢性的な職員不足となり、時間外労働時間の上昇がみられました。

- ① 非正規職員から正規職員への転換

a 正規職員転換数

0人(0人)

- ② 適正な職員配置による業務負担の軽減

a 職員数 R6.3.31 現在

正規	37人(39人)	非正規	20人(18人)
派遣(シルバー人材センター)	0人(0人)		

b 離職率

離職率	11.76%(8.93%)
-----	---------------

③ 働き方の改善の意見を現場から提言できる環境づくり

a 委員会活動内容

委員会名	取り組み内容と成果
行事委員会	施設内活動の企画・立案・実施・振り返り 個別支援 新型コロナウイルス感染対策のため、地域との交流を兼ねた活動は中止となりましたが近隣への外出は少しずつ再開できました。またバルコニーから第四中学校の運動会の応援をするなどの楽しさを提供できるよう取り組みました。
地域貢献委員会 (広報委員会)	施設活動の広報に関する取り組み 広報誌作成・ホームページの更新 地域貢献に関する活動 地域の通学路の清掃活動を年2回行いました。「広報すなみ」の発行に際して、できるだけ多くの利用者を掲載できるように、また、元気な姿を見ていただけるように作成しました。
魅力ある職場づくり委員会 (人材育成委員会)	職員の知識・技術の向上を目的とした各種研修の企画・立案・実施 大勢の職員が集合して研修を行うことは難しかったですが、処遇改善、スキルアップを目的とした研修を事業計画に沿って実施していきました。研修内容を職員へ周知できるよう取り組みました。
自立支援委員会	排泄ケアに関する取り組み 紙おむつの検討や利用者の皮膚トラブルや排泄の漏れ状況を確認し、トラブルも発生せず排泄ケアへの取り組みが行えています。
身体的拘束等適正化委員会	身体的拘束等防止に関する取り組み 身体的拘束は、経管栄養者の栄養ルートの自己抜去防止のためやむを得ず防御用手袋を使用する方がいる一方、状況に応じて会議にて検討を行い、身体的拘束を最小限にするように努めました。
高齢者虐待防止委員会	高齢者虐待防止に関する取り組み 高齢者虐待に関する定期的な勉強会の実施に合わせ介護の倫理観に関する勉強会も実施しました。慌ただしく業務に追われるなか勉強会をとおりし人権意識や倫理観を再確認する良い機会となりました。
褥瘡対策委員会	褥瘡予防に関する取り組み 医師による褥瘡回診を開始し褥瘡改善に努めました。 褥瘡発生者には月1回評価（DESIGN）を行い褥瘡状態の把握と改善に努めました。 ブレーデンスケールによる褥瘡アセスメントを行うことで褥瘡予防に努めました。

④ 著しい成果のある職員の表彰

⑤ 介護補助器具等の購入や介護支援ソフトの有効活用

- ⑥ 認定特定行為業務従事者研修の受講を支援
 a 認定特定行為業務従事者研修 2人(4人)
- ⑦ 定期健康診断、腰痛対策、ストレス対策の実施
 a 定期健康診断実施(5月、11月)
 b ストレスチェック実施(8月)
- ⑧ 働き方の改善による時間外労働時間の削減、有給休暇取得率の向上
 a 時間外労働時間

時間外労働時間	1942.3時間(2243.2時間)
---------	--------------------

 b 有給取得率

有給取得率	81.7%(81.1%)
-------	--------------

6 運営管理

(1) 旧施設の設備が安全な環境であるよう軽微な修繕を行いました。新施設移転後はコロナ禍のため時期がずれることもありましたが、年間計画に沿って点検及び美化活動を実施すると同時に旧施設の保安業務も行いました。

① 快適な生活環境の提供に必要な修繕と美化活動

a 点検・整備

レジオネラ菌検査	2月	建設設備定期報告	—
貯水槽点検	6月	水質検査	6月
消防設備点検	9、3月	防災管理自主点検	5、8、11、2月
エレベーター点検	毎月	電気設備点検	各月
福祉機器点検	使用前	医療機器点検	使用前
厨房機器点検	使用前	車両点検	運行前

b 施設美化

エアコン清掃	年2回	換気扇清掃	年2回
--------	-----	-------	-----

c 施設管理

全館害虫駆除	年2回	厨房害虫駆除	年6回
--------	-----	--------	-----

② 生産性向上を目的とした労働環境の検討

(2) 組織強化に取り組みましたが、体調不良や結婚等の理由により職員の退職が続きました。

- ① 安定的な人材確保のため求人登録や学校訪問を積極的に行う
- ② 資格者の安定確保
- ③ 適正な職員配置に努める

7 利用者状況(定員78人)

(1) 食事場所 R6.3.31現在 利用者61人、内入院者0人

2階食堂	17人(16人)	3階食堂	22人(25人)
2・3階居室	12人(14人)	経管栄養食者	10人(11人)

(2) 食事 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

自立	34 人(39 人)	一部介助者	12 人(9 人)
全介助者	5 人(7 人)	経管栄養食者	10 人(11 人)

(3) 排泄 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人 数に重複あり

自立	0 人(0 人)	トイレ誘導者	10 人(6 人)
ポータブルトイレ使用者	17 人(21 人)	オムツ使用者(紙オムツ)	43 人(48 人)

(4) 入浴形態 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

介助浴者	15 人(26 人)	特浴者	46 人(40 人)
------	------------	-----	------------

(5) 移乗 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

自立	6 人(1 人)	一部介助者	15 人(7 人)
全介助者	40 人(56 人)		

(6) 移動方法 R6.3.31 現在、利用者 61 人、内入院者 0 人、数に重複あり

自立	0 人(0 人)	手引き歩行	0 人(0 人)
杖	1 人(1 人)	シルバーカー	4 人(5 人)
歩行器	3 人(3 人)	車椅子	27 人(32 人)
リクライニング	8 人(8 人)	ティルトリクライニング	25 人(11 人)
ティルト	0 人(9 人)	自動ブレーキ車椅子	3 人(5 人)
ストレッチャー	2 人(2 人)		

(7) 更衣 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

自立	1 人(1 人)	一部介助者	18 人(9 人)
全介助者	42 人(54 人)		

(8) 長谷川式 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

0 点	10 点未満	20 点未満	20 点以上	30 点
12 人(17 人)	27 人(29 人)	7 人(11 人)	4 人(8 人)	1 人(1 人)

(9) 待機者数 R6.3.31 現在

女性	88 人(65 人)	男性	45 人(46 人)
		合計	133 人(111 人)

(10) 利用者年齢状況 R6.3.31 現在

最高年齢者	101 歳(102 歳)	最低年齢者	70 歳(70 歳)
		平均年齢	87.8 歳(88.8 歳)

(11) 入所者数 R6.3.31 現在 利用者 61 人、内入院者 0 人

女性	53 人(64 人)	男性	8 人(10 人)
----	------------	----	------------

(12) 新入所状況

	女性	男性	合計
新規利用者数	20人(24人)	4人(6人)	24人(30人)
内：在宅生活者	4人(2人)	2人(0人)	6人(2人)
内：病院入院者	10人(8人)	0人(3人)	10人(11人)
内：老健利用者	4人(7人)	2人(3人)	6人(10人)
内：療養型利用者	0人(1人)	0人(0人)	0人(1人)
内：グループホーム	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
内：養護老人ホーム	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
内：有料老人ホーム	1人(3人)	0人(0人)	1人(3人)
内：サ高住	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
内：その他	1人(3人)	0人(0人)	1人(3人)

(13) 市町村別入所状況 R6.3.31 現在 利用者 61人、内入院者 0人

三原市	58人	尾道市	2人
竹原市	1人		

(14) 在所期間状況 R6.3.31 現在
全利用者

最長利用者	10年8ヶ月	最短利用者	1ヶ月23日
		平均	2年10ヶ月 (2年6ヶ月)

(15) 退所者状況

	女性	男性	合計
退所者数	30人(35人)	6人(4人)	36人(39人)
内：長期入院	5人(6人)	4人(1人)	9人(7人)
内：死亡	25人(20人)	2人(3人)	27人(23人)
内：その他	0人(9人)	0人(0人)	0人(9人)

(16) 利用者介護度分布 R6.3.31 現在 利用者 61人、内入院者 0人

要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計
1人(2人)	0人(0人)	16人(13人)	27人(41人)	17人(18人)	61人(74人)
1.6%(2.7%)	0%(0%)	26.2%(17.6%)	44.3%(55.4%)	27.9%(24.3%)	100%
				平均要介護度	4.0(3.9)

(17) 平均稼働率:入院者除く

(単位:%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
85.7(79.3)	82.2(74.3)	80.6(71.4)	81.6(80.5)	85.7(86.5)	88.0(81.9)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
90.7(81.3)	86.6(88.7)	82.3(93.2)	79.2(91.2)	78.0(86.9)	77.5(86.6)
				年平均	83.2(83.4)

8 数値目標（部門別）

部門	内容	R5 年度結果	R5 年度目標
介護	身体的拘束者（ミトン）	10 人(解除者 10 人)	5 人
	介護福祉士資格取得者	0 人	1 人
	認知症実践者研修	0 人	1 人
	認知症リーダー研修	0 人	1 人
看護	喀痰吸引等研修修了者	0 人	1 人
	褥瘡発生率	2.5% (2/78 人)	0.78%(1/78 人)
	口腔衛生の実施	62.25/月	—
栄養	経口維持の取り組み	11 人	6 人
相談	稼働率	83.2%	94%
	入所日数の短縮化	32.4 日	14 日
	地域貢献事業の実施	1 回	1 回
	継続的な個別機能訓練	随時	随時
事務	電気使用量（8 月～3 月）	対前年比 1.05%増	対前年比±0
	水道使用量（10 月～3 月）	対前年比 1.08%減	
	ガス使用量（8 月～3 月）	対前年比 1.09%減	
共通	ヒヤリハット件数	対前年比 14.8%減	対前年比 20%減
	事故の件数	1 件	2 件
	介護支援専門員資格取得者	0 人	0 人

令和5年度すなみ荘ショートステイ事業報告（案）

事業概況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類になり、これまで利用されていた方々に加え、新たに利用していただける受入れ状況となりましたが、新型コロナウイルスは終息したわけではなく、その後も流行を繰り返していたことや、職員の退職で人手不足が顕著な状況になってしまい、十分なサービスを提供することが困難な状況となり、受け入れ自体を制限していたことから稼働率は低迷してしまいました。

今年度は稼働率向上に向け、利用者や家族、居宅介護支援事業所等関係機関への情報提供や連携をとおして新規利用者獲得へアピールを行っていきます。

事業運営の基本方針

誠実、確実、堅実をモットーに「福祉・医療・保健・地域社会」との協力のもと、利用者の在宅生活継続と健康保持を総合的に支援し自立に向けた福祉サービスの提供に努めました。また、個人情報管理を徹底し、利用者・家族・地域に開けた施設として信頼される福祉サービスの提供に努めました。

長期目標

- ・今後も進む少子高齢化、人口減少などの将来を踏まえ、地域の福祉ニーズに応えられる率的で質の高いサービス提供に努めました。
- ・多職種協働で科学的介護を推進し利用者に適したサービスを提供しました。
- ・地域共生社会をめざし、地域に貢献・還元できるサービスを提供する。

短期目標

- ・新規利用者の開拓及び稼働率向上をめざしましたがサービス提供体制が整わず稼働率が低迷してしまいました。
- ・ご利用者の生活習慣や生活環境を確認し、役割や生きがいを持ち生活ができるように取り組みしました。
- ・3Mの排除、5S活動に取り組み働きやすい魅力ある職場づくりに取り組みました。
- ・ご利用者が安全で安心して過ごせるように、リスクを予測しリスクマネジメントに取り組みしました。

運営計画

※以下、（ ）内は前年度数値

1 快適な利用の支援

(1) コロナ過のためサービスに制限がありましたが、利用期間中は利用者や家族が安心して過ごしていただけるよう努めました。

- ① 在宅生活継続を考慮したケア・マネジメントの実施
- ② 建て替えに伴い利用者の安全を図り新しい環境で安心、快適なサービスの提供
- ③ 笑顔で思いやりのある心の届くコミュニケーション
- ④ 健康管理と療養指導

- ⑤ 栄養・嗜好品に配慮した安全な食事の提供
- ⑥ 在宅生活に即した機能訓練と余暇活動の支援
- ⑦ 羞恥心やプライバシーへの配慮
- ⑧ 自己決定権や選択権の尊重
- ⑨ 高齢者虐待や身体的拘束廃止に向けた担当を定め対策を実施
- ⑩ 持参物品の管理の徹底
- ⑪ 清潔で安全で安心な環境の整備
- ⑫ 季節感のあふれる事業所の雰囲気づくり

2 安全管理対策

(1) 新型コロナウイルスをはじめとした感染症対策を行うとともに、事故や災害から利用者を守るために必要な体制作りや対策を継続的に行いました。

- ① 利用時の情報収集
- ② 職員への情報周知の徹底
- ③ 介護事故防止に対する予測した対応

a ヒヤリハット、介護事故件数

ヒヤリハット	4件(4件)	事故	0件(0件)
--------	---------	----	---------

b 市町村への報告回数

0件(0件)

- ④ 感染症や食中毒に対する標準予防策の徹底
- ⑤ 感染症の集団感染に備えた訓練及び各対策の徹底
- ⑥ 感染症や災害発生時に、継続的にサービスを提供できるよう計画等を策定
- ⑦ 防犯に係る安全確保の補完・強化
- ⑧ リスク発生時の速やかな報連相の実施
- ⑨ 災害被災者の円滑な受け入れ
- ⑩ 各種記録の徹底
- ⑪ 車両点検・整備と安全な送迎の実施

3 信頼され選択していただけるサービス

(1) 利用者や家族、地域から信頼を得られるため、必要があれば各種相談や事業所の持つ資源やノウハウを随時提供しました。サービスについては丁寧な説明のもと同意を得たうえで提供しました。

- ① 各種プランの担当者による説明
- ② サービス開始時の文書による同意
- ③ 利用時の様子について正確な情報提供
- ④ 個人情報の適切な管理
- ⑤ 苦情・各種相談への対応

a 苦情件数

利用者	0件(1件)	利用者家族	0件(0件)
-----	---------	-------	---------

4 介護予防対策

(1) 住み慣れた地域で生活が維持できるよう、介護予防につながるサービスを提供する。

- ① 在宅生活維持に必要な健康指導や機能訓練の実施
- ② 日常生活を地域で継続していくための支援
- ③ 余暇活動の支援
- ④ なじみの人間関係づくりができる場の提供

5 利用状況 (定員 8 人)

(1) 利用者

男性	7 人(14 人)	女性	14 人(23 人)
----	------------	----	-------------

(2) 新規利用者

男性	2 人(12 人)	女性	1 人(21 人)
----	------------	----	------------

(3) 利用中止者

死亡	2 人(1 人)	施設入所	3 人(2 人)
入院	0 人(4 人)	その他	3 人(6 人)

(4) 利用者平均年齢

91 歳(95 歳)

(5) 居宅介護支援事業所別紹介者利用延日数

すなみ荘	166 日(183 日)	宗斉会須波病院	128 日(74 日)
ニチイ三原	20 日(4 日)	三原市医師会病院	70 日(2 日)
東部包括 (どりいむ)	5 日(0 日)	笑顔みはら	92 日(95 日)
興生総合病院	0 日(8 日)	かもめ	0 日(0 日)
サンライズ	45 日(16 日)	中央包括 (医師会)	0 日(2 日)
のどか	0 日(71 日)	三原赤十字病院	0 日(2 日)
サンキ・ウェルビィ	0 日(0 日)	きぼう	0 日(8 日)
梅林	0 日(2 日)		
		合計	526 日(467 日)

(6) 平均稼働率

(単位 : %)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
21.7(6.0)	19.4 (5.1)	23.3 (12.0)	25.4 (8.4)	17.3 (32.3)	23.3 (47.3)
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
15.7 (25.8)	11.3 (16.0)	16.1 (14.1)	15.7 (25.4)	11.6 (28.6)	14.5 (29.0)
				年平均	17.9 (20.8)

(7) 利用者送迎延回数

須波	22回(22回)	須波西	2回(2回)
須波ハイツ	12回(12回)	幸崎	65回(65回)
田野浦	16回(16回)	宗郷	10回(10回)
和田	2回(2回)	貝野	0回(0回)
宮浦	2回(2回)	皆実	1回(1回)
館町	0回(0回)	西町	0回(0回)
宮沖	29回(29回)	中之町	0回(0回)
新倉	0回(0回)	西野	2回(2回)
西宮	2回(2回)	明神	22回(-)
港町	2回(-)		
		合計	270回(218回)

令和5年度すなみ荘デイサービスセンター事業報告（案）

事業概況

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行となりましたが、デイサービスでは引き続き感染症予防対策を少しずつ緩和しながらも継続して行いました。職員は日頃から体調管理に努め、定期的にPCR検査や抗原検査を実施しました。ご利用者様やご家族様が感染した場合は利用を中止とさせていただきます。皆様のご理解とご協力のおかげで、デイサービスでの感染はありませんでした。

5類に移行したことで、家族の往来は増えましたが、利用者の外出機会は減ったままで、家で寝て過ごすことが多くなった人が増えています。持病の悪化、認知症の進行、筋力低下による転倒も増え、入院や施設入所も多くなりました。

そうした中で新規利用者数の確保、稼働率の向上を目指し取り組みました。既存の利用者の利用日数を増やしたり、ケアマネに定期的に連絡を取りながら新規利用者の確保に努めました。しかし、新規のご利用者の問い合わせ自体が減少したこともあり、新規利用者数も伸び悩み、入院や施設入所も多いため稼働率も低下しました。最近では、お元気な高齢者が多くなり、「デイサービスに行かなくても大丈夫」と言われる方も増えていますが、一方でデイサービスを勧められても「行きたくない」と拒否される人も増えていきます。今後は、そういう人をいかにデイサービスの利用に結びつけていくかが課題となります。

長期目標

「在宅生活の支援を担う施設運営の確立」

- ・病院や居宅介護事業所、他事業所と連携を取りながら、在宅生活が継続できるよう、地域連携の拠点機能としての役割を果たせるよう努めました。
- ・感染症予防対策に取り組むことで、継続的にサービスを提供することが出来ました。
- ・多職種協働で常に利用者本位の質の高いサービスが提供できるよう努めました。

短期目標

「安定したデイサービスを提供するための事業運営」

- ・感染症予防対策を徹底して行い、安心して利用していただける環境を整えました。
- ・新規利用者22名、稼働率68.0%と低迷しました。原因として、①ショートステイ利用者の増加、利用日数の増加 ②利用回数の多い人の入院や施設入所 ③デイケアやリハビリ施設が整った他事業所を希望される人の増加 ④サービスの利用拒否等があげられます。
- ・個別機能訓練に取り組み、身体機能の向上を図りました。
- ・認知症利用者が増加しています。症状によって個別対応を行い、思いやりのある介護をするよう努めました。
- ・明るく楽しい働きやすい職場づくりに取り組みました。

運営計画

※以下、（ ）内は前年度数値

1 サービス提供

(1) 生活相談サービス

新型コロナウイルス感染症に関する情報を手紙や連絡帳を通じて、ご利用者やご家族に提供しました。

- ① ケアプランに沿った通所介護計画書を作成し、利用者及び家族の同意のもと、適切なサービスを提供しました。
- ② 居宅介護支援事業所や包括支援センターと連携をとりました。デイサービス利用を希望する人が減少しているということで、新規利用者の獲得が難しかったです。
- ③ 家族からの相談に応じています。個人情報保護に努めています。

苦情処理件数	0件(2件)
--------	--------

(2) 送迎サービス

- ① 利用者の身体状況により車椅子対応車両で送迎を行ったり、地理的状況を考慮し、軽自動車を送迎を行いました。
- ② 送迎前後に車両の点検・整備を行い、常に安全運転に努めました。送迎前後にアルコールチェッカーを使用し酒気帯び検査を実施し記録しました。
- ③ 車両が停まってからシートベルトを外すよう利用者に説明しています。車椅子を車両に固定し、シートベルト2本着用を確認し送迎車に乗りました。

(3) 入浴サービス

- ① 身体状況を観察(褥瘡・外傷・発疹・腹部膨満等)し、看護員による医療処置を行い、状況に応じて医療機関への受診を勧めました。
- ② 快適な入浴ができるよう環境を整えました。
- ③ 利用者への声掛けに努め、転倒等の事故が無いよう安全な入浴介助に努めました。
- ④ 利用者の状態に応じてシャワーキャリーの使用やシャワー浴を実施しました。

(4) 食事サービス

- ① 疾病や身体状況に応じて食事形態の見直しや食事用具を選定し、おいしく食事が摂れるよう努めました。
- ② 嚥下状態が悪化している人が増え、トロミをつけて対応しました。食事摂取量を把握しました。
- ③ 食事中に誤嚥等の事故がないよう見守りを強化しました。

(5) 口腔機能の向上

- ① 口腔内をチェックし、自歯及び義歯の歯磨き指導を行いました。義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めました。
- ② 食事前に口腔リハビリ体操を実施し嚥下訓練を行いました。
- ③ 誤嚥性肺炎の予防のため食事姿勢に気を付け、嚥下機能の観察、食後は口腔ケアを実施しました。

(6) その他日常生活上の援助

- ① 移乗・移動：利用者の身体状況に応じた福祉用具（杖・歩行器・シルバーカー・車椅子）を使用し、見守り、付き添い、介助で移動しました。
- ② 排泄：定期的にトイレ誘導を行いました。必要に応じ、排泄動作の介助やおむつ交換を行いました。

(7) 認知症ケア

- ① 認知機能の低下予防のため個別対応で脳トレを実施しました。
- ② 歌を歌ったり、レクリエーションを行ったり、コミュニケーションをとることで脳の活性化を図りました。
- ③ 認知症利用者個々の行動や心理状況に応じた対応を行いました。

(8) リハビリ（機能訓練）

- ① 運動器の機能向上（要支援）
 - a リハビリ機器を自主的に使用し運動される利用者が増えてきました。在宅生活が続けられるよう自立を目指した訓練を実施しました。
 - b 利用者や家族から福祉用具や衣服・靴の相談がある時はアドバイスをを行い、必要に応じて購入していただきました。
- ② 個別機能訓練（要介護）
 - a 身体機能の向上に向けて、リハビリ機器を使用したり、カラオケ機器使用した個別に訓練を実施しました。
 - b 日常生活動作（ADL）及び手段的日常生活動作（IADL）訓練を反復的に実施しました。

(9) レクリエーション

- ① 運動や利用者同士のコミュニケーションを促進することで、心身の活性化を図りました。
- ② ゲームや歌を歌うことで脳機能を活性化させ、社交性や協調性を養いました。
- ③ 100 マスゲーム、パズル等の個人ゲームや集団でゲームを行い、意欲向上を図りました。
- ④ カラオケ機器を使用した体操やレクリエーションを実施しました。

a 年間行事

月	行 事	参加人数
4月	花見	全員
5月	健康教室（熱中症）	19人
6月	防災訓練（風水害・地震避難訓練）	17人
7月	七夕	中止
8月	夏祭り・人権学習	111人・17人
9月	敬老会・ミニ調理実習（どら焼き作り）	129人・20人

10月	運動会	110人
11月	健康教室（インフルエンザ）	22人
12月	健康教室（ノロウイルス）・クリスマス会	21人・112人
1月	防災訓練（火災避難訓練）	23人
2月	節分・人権学習	20人
3月	ひな祭り	全員

2 健康管理

（1）感染拡大予防策

- ① コロナウイルス感染症が5類となり対応策を医師と連携し、状況を見て対応を変更しました。職員及び同居家族が感染した場合、自宅療養及び自宅待機をしたうえ、抗原検査で陰性が確認されてから出勤しました。また利用者においても同様に抗原検査で陰性が確認されてから利用していただきました。
- ② 三原市や他事業所の感染状況、感染症対応策等の情報収集しました。
- ③ ご利用者のご家族に口頭や手紙、連絡帳による情報提供を行いました。
- ④ 発生時にはマニュアルに基づき対策を実施しました。

（2）感染症予防対策

- ① 新型コロナウイルス感染予防対策を行いました。
3 密回避、マスク着用（食事、入浴以外）、手洗いの励行、検温、消毒、加湿空気清浄機の使用、換気、パーテーション設置、デイ終了後施設内の清掃・消毒等を実施しました。
- ② 標準予防策を行い、新型コロナ感染症以外の感染症の予防にも努めました。
- ③ コロナワクチン接種やインフルエンザ予防接種終了者の確認を行いました。
- ④ 換気、室温や湿度調整、消毒剤を使用しての清掃などを行い、環境整備を行いました。

（3）心身の健康状態を観察し、異常の早期発見に努めました。体調不良時は、家族やかかりつけ医に連絡し情報提供し指示を仰ぎ、病院受診をお願いしました。

（4）医療支援対策

ストマー交換・在宅酸素療法・導尿・服薬管理・褥瘡他処置等、かかりつけ医や訪問看護と連絡を取りながら実施しました。

3 地域との交流

- ① 「広報すなみ」を年3回発行し、デイサービスの活動を積極的にアピールしました。

- ② 閉じこもりや支援が必要な高齢者を居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・医療機関等と連携してデイサービスの利用に繋げ、安心して生活できるよう支援しました。
- ③ 高齢者の個別課題解決のため包括、居宅介護支援事業所等に情報提供しました。幸崎連絡会議に参加し地域住民の情報収集を行いました。
- ④ コロナ対策のためボランティアの受入れは中止しました。

4 職員の資質向上

- ① 職場内会議を月 1 回開催し、利用者サービスの向上を目指しました。
- ② 職場外研修はオンライン研修で不定期に開催されました。研修で得た情報を職員に報告・伝達しました。
- ③ 年 3 回接遇チェックを行い、接遇の向上に努めました。
- ④ 職場内研修を月 1～2 回行い、業務に活かせるよう努めました。
- ⑤ 今年度、職員 1 名が認知症実践者研修を受講しました。
- ⑥ 職員の処遇改善
 - a 職員配置を毎日考え、業務がスムーズに行えるようにしました。
- ⑦ 働き方を改善するための意見を現場から提言できる環境づくりに努めました。
- ⑧ 時間外労働時間の削減を目指し、有給休暇が取得できるよう職員が協力して業務に当たりました。
- ⑨ 定期健康診断、腰痛対策、ストレス対策を実施し、職員が安全に業務できるよう健康管理に努めました。
- ⑩ 事故・ヒヤリハット件数

	件数	内訳		
事故報告件数	0 件(2 件)			
ヒヤリハット件数	8 件(13 件)	転倒 5 件	送迎漏れ 2 件	その他 1 件

⑪ 緊急時対応件数

救急車にて搬送	0 人(0 人)
---------	-----------

⑫ 施設内設備・美化及び環境作りのため、定期的な点検・整備を実施しました。

貯水槽点検	年 1 回	水質検査	年 2 回
消防設備点検	年 2 回	レジオネラ菌検査	年 1 回
福祉機器点検	使用前	電気設備点検	月 1 回
厨房機器点検	使用前	車両点検	運行前
館内安全点検	年 2 回	害虫駆除	年 6 回
ワックス清掃	1 回	消毒液を使用した清掃	毎日

5 施設設備の改修

施設内のエアコンを新しく交換し、快適な温度で過ごせるようになりました。照明の LED への交換は、令和 6 年度に実施予定です。

6 活動実施状況

(1) 年間利用者数

令和5年度	5,975人	7.7%減
令和4年度	6,471人	7.6%減
令和3年度	6,997人	15.0%減

(2) 平均稼働率

(単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
69.6(65.2)	70.4(73.5)	67.8(70.3)	70.4(75.6)	66.7(77.2)	69.7(80.6)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
68.1(75.7)	69.6(76.8)	62.6(64.7)	66.2(68.8)	69.7(72.1)	64.9(71.0)
年間					68.0(72.6)

(3) 地域別利用者延人数

地域	年間延人数	構成比 (%)
須波	1,165人(1,205人)	19.5(18.6)
幸崎	3,702人(3,978人)	62.0(61.5)
和田	564人(599人)	9.4(9.3)
その他(宮沖・東町等)	544人(689人)	9.1(10.6)
合計	5,975人(6,471人)	100(100)

(4) 介護度別利用状況(延べ人数)

要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5
2,278人(2,539人)	1,322人(1,374人)	905人(916人)	151人(354人)	0人(7人)
38.1%(39.2%)	22.1%(21.2%)	15.1%(14.2%)	2.5%(5.5%)	0%(0.1%)
自立	要支援1	要支援2	合計	平均介護度
0人(0人)	330人(275人)	989人(1,006人)	6,471人(6,471人)	1.8(1.7)
0%(0%)	5.5%(4.2%)	16.6%(15.5%)	100%	

(5) 新規契約者数(要介護度別)

要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5
3人(6人)	3人(1人)	2人(2人)	2人(0人)	0人(0人)
自立	要支援1	要支援2	計	
0人(0人)	8人(5人)	4人(8人)	20人(22人)	

(6) 契約終了者数 (理由別)

自己都合	長期入院	事業所変更	死亡	施設入所	計
2件(6件)	8件(10件)	0件(2件)	2件(5件)	6件(6件)	18件(29件)

(7) 加算取得状況

要介護者

入浴	個別 I	科学的介護	認知症	口腔機能向上
3,725人(4,453人)	4,632人(5,187人)	405人(471人)	1,931人(1,472人)	67人(86人)

要支援者

運動器	科学的介護
252人(221人)	218人(223人)

令和5年度すなみ荘居宅介護支援事業所事業報告（案）

事業概況

令和5年4月から2名体制となったため、5月から特定事業所加算Ⅲを中止しました。7月より逡減制を適用し居宅介護支援費Ⅱに変更することで、ケアマネジャー1人当たりの担当人数を45件未満、それ以上は60件未満までとし、基本報酬の確保と信頼関係を構築しながら利用者の暮らしが安定するよう努めて参りました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、高齢者相談窓口として介護予防教室を再開。遠方の家族は帰省しやすくなり家族の関わりが深まった一方で在宅での生活に限界を感じ、施設入所や小規模多機能施設を希望され施設入所を選択される方も増加しました。介護相談内容も「医療依存度の高いケース」「虐待事例」「家庭内多問題」「家族介護力の不足」など複雑化・深刻化しており、家庭の事情を地域に知られることを恐れ、一人で抱え込み孤立する家庭も増えています

また、難病により他法制度を併用する支援を必要とされる年齢の若い方の依頼も多く、多職種での支援の重要性も高まっています。こうした複合他問題ケースに対応するため、行政や高齢者相談センターと連携を図るとともに、研修会の企画や運営、他法人との合同研修会、民生委員との意見交換会に参加し自己研鑽に取り組んで参りました。

令和6年4月からは、ケアマネジャーの3人体制が整ったため、特定事業所加算Ⅲを算定し、質の高いケアマネジメントの提供に努めて参ります。

長期目標

「業務管理」

- ・制度、医療、地域情報を的確につかみ、福祉サービスの向上に努めました。
- ・業務（指示・確認）マニュアルの見直しとその実施及び記録に努めました。
- ・介護支援専門員の質の向上に努めました。

短期目標

「居宅介護支援事業所の信頼保持」

- ・介護保険制度に則り、適正な業務に努めました。
- ・業務に関して取り扱う個人情報管理の徹底を図り、漏洩防止に努めました。

「質の高いケアマネジメントの提供」

- ・医療と介護の連携および、社会資源の活用に努めました。
- ・利用者、家族の意向を受け止めるとともに、多職種連携及び生活支援サービスの提供により自立に向けたケアプラン作成に努めました。
- ・ケアマネジメントの公正中立性を確保し、適切な情報の公表に努めました。
- ・特定事業所加算の要件を満たすとともに、地域への情報発信に努めました。
- ・自己研鑽、専門性の向上に努めました。
- ・地震等の自然災害、感染症のまん延などが発生しても重要な事業を中断させないための方針、体制、手順を示したBCP（事業継続計画）の作成に努めました。

「感染症対策の徹底」

- ・介護支援専門員が自ら感染源になることがないように、予防策を講じました。

運営計画

1 サービス提供

- ① 高齢者の生活環境や心身の状況に応じ、偏りのない保健医療サービス及び福祉サービスが提供されるよう努めました。
- ② ケアマネジメントの公正中立性の確保を図るため、サービス利用の利用割合の説明と介護サービス情報公表制度において公表しました。
- ③ 利用者や家族との連携を密にした適切で迅速な対応を行い、満足度の向上に努めました。(満足度調査)
- ④ 介護予防への取り組みのため、地域資源を生かしながら多職種によるケアマネジメント支援に努めました。
- ⑤ 「自立支援」「介護予防」「地域づくり」「尊厳の保持」を基本とし、効率性や安全性の高い介護予防事業を実施しました。
- ⑥ 高齢者の生活を支える上で、多問題、複合的な問題を抱えたケースに各関係機関と連携し早期対応に努めました。
- ⑦ 三原市高齢者相談窓口事業では、介護保険外のサービスを含む、福祉に関する総合的な相談や成年後見・虐待防止などの権利擁護業務及び世帯の複合課題や制度の狭間にある課題などへの対応を多機関協働での支援に努める。
- ⑧ 車両の点検及び交通安全に心がけ、事故のない業務に努めました。
- ⑨ 地域住民に対し、介護予防に資する基本的な知識(運動器の機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防等)の普及・啓発に努めました。
- ⑩ 本人、家族との面接時や遠方の家族に対し、新型コロナウイルス感染症に関する情報確認するとともに緊急時の対応を徹底し、各関係機関の対応方針等を情報共有しました。
- ⑪ 「災害」及び「感染症」に関するBCP(業務継続)を作成し、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスを継続的に提供することに努めました。

2 情報の保護・管理

- ① 個人の尊厳を保持しながら、利用者が地域社会において安全で快適な生活ができるよう努めました。
- ② 利用者及び家族の権利が侵害される事のないようサービス選択の自由に十分配慮し、確実な同意の上で対応する事に努めました。
- ③ 関係機関、各事業者、利害関係者との情報交換において、法令に従い慎重な個人情報取り扱いに努めました。
- ④ 利用者や家族に緊急事態が生じた場合、状況に応じた適正な情報の活用に努めました。

3 広報活動

- ① 須波連合町内会地域福祉ネットワーク会議、幸崎勉強会等に参加し、地域における課題に他事業所、住民の方々と連携を深めることによって地域福祉の課題解決に向けた多職種による協力体制づくりを推進しました。
- ② 地域福祉活動（サロン）へ参加し、地域との繋がりを深めました。
- ③ 広報誌を活用し、福祉・医療・保健情報及び居宅介護支援事業のタイムリーな情報公開に努めました。

4 職員の資質向上

- ① スーパービジョンの実践による人材育成
 - a スーパーバイザー（主任介護支援専門員）は、管理・支持・教育の各機能を果たすことによって、スーパーバイジー（介護支援専門員）が自ら成長することを促し、ケアマネジメントにおける自己完結力の向上やトラブルへの対処能力を養えるよう自己学習等に努めました。
- ② マネジメント技術の向上のため、初任者研修、現任者研修等を実施しました。
- ③ オンライン受講などを活用し、他法人が運営する居宅介護支援事業所との事例検討会や地域包括の事例検討会等への会議に参加し、専門知識習得に加え、発信力、情報収集力、コミュニケーション力の向上、多職種連携に努めました。

5 活動実施状況

※以下、（ ）内は前年度数値

(1) 契約者数内訳 令和6年3月31日 現在

契約者数合計		104.5人(112.5人)		
内 訳	サービス利用	96.5人(109.5人)	入院	6人(3人)
	サービス未利用	3人(3人)	老健入所	2人(0人)

(2) 居宅サービス計画年間作成件数

	延べ件数	月平均件数	月最高件数	月最低件数
要介護	1105件(1203件)	92.1件(100.3件)	100件(109件)	84件(94件)
要支援	184件(230件)	15.3件(19.2件)	23件(24件)	7件(13件)

(3) 新規計画件数

	件数	月平均件数	月最高件数	月最低件数
要介護	41件(48件)	3.4件(4.0件)	8件(10件)	1件(0件)
要支援	4件(15件)	0.3件(1.3件)	1件(4件)	0件(0件)

(4) 入院・入所者数

延べ人数	月平均人数	月最高人数	月最低人数
53人(50人)	4.3人(3.8人)	8人(7人)	1人(1人)

(5) 死亡者人数

人数	月平均人数	月最高人数	月最低人数
10人(15人)	0.8人(1.7人)	4人(4人)	0人(1人)

(6) サービス別利用延べ件数 (要介護)

訪問介護	通所介護	短期入所生活	短期入所療養
237件(288件)	577件(647件)	153件(141件)	48件(65件)
訪問入浴	通所リハ	福祉用具貸与	住宅改修
16件(38件)	333件(356件)	651件(749件)	7件(749件)
地域密着通所介護	定期巡回・随時	訪問リハ	訪問看護
81件(57件)	0件(0件)	152件(139件)	166件(223件)
複合型	福祉用具購入		
1件(0件)	4件(16件)		

(7) サービス別利用件数 (要支援)

訪問介護	通所介護	通所リハ	福祉用具貸与
62件(79件)	62件(88件)	23件(21件)	118件(147件)
訪問看護	訪問リハ	短期入所生活	地域密着通所介護
12件(9件)	18件(10件)	0件(5件)	6件(18件)
短期入所療養			
2件(0件)			

(8) 申請及び調査件数

申請件数	月平均件数	認定調査件数	月平均件数
74件(94件)	6.2件(7.8件)	2件(20件)	0.2件(1.7件)

(9) 資格取得者

主任介護支援専門員	0人(0人)	社会福祉士	0人(0人)
-----------	--------	-------	--------

(10) 苦情処理件数

苦情受付件数	月平均件数	ヒヤリハット件数	月平均件数
0件(1件)	0件(0.1件)	0件(0件)	0件(0件)

(11) 高齢者相談窓口

相談件数	29件(47件)
------	----------

(12) 地域交流参加

実施日	実施内容	参加人員
4月15日	困難事例検討会	20人(20人)
5月20日	困難事例検討会	20人(20人)
6月17日	困難事例検討会	20人(20人)
7月15日	困難事例検討会	20人(20人)
9月16日	困難事例検討会	20人(20人)
10月21日	困難事例検討会	20人(20人)
11月18日	困難事例検討会	20人(20人)
12月16日	困難事例検討会	20人(20人)
1月20日	困難事例検討会	20人(20人)
2月17日	困難事例検討会	20人(20人)
3月17日	困難事例検討会	20人(20人)

※困難事例検討会 (参加者) 医師、歯科医師、幸崎民生委員、通所介護事業所
高齢者相談センター三恵苑、居宅介護支援事業所
訪問看護、小規模多機能事業所

※幸崎交流会 (参加者) 高齢者相談

苦 情 結 果 報 告 書

第三者委員様

苦情解決責任者

特別養護老人ホームすなみ荘

すなみ荘ショートステイ

施設長 里 村 学

次のとおり、苦情の申し立てがありましたので、報告いたします。

受付期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
受付担当者	生活相談課長 城平 敏彦

苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対応
苦情なし	—	—	—

苦情結果報告書

第三者委員 様

苦情解決責任者

すなみ荘デイサービスセンター

管理者 青野 美佐子

次の通り、苦情の申し立てがありましたので、報告いたします。

受付期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
受付担当者	介護員兼生活相談員 金居 由華

苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対 応
苦情なし	—	—	—

苦 情 結 果 報 告 書

第三者委員 様

苦情解決責任者

すなみ荘居宅介護支援事業所

管理者 景 山 法 子

次の通り、苦情の申し立てがありましたので、報告致します。

受付機関	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日		
受付担当者	介護支援専門員 實利 真由美		
苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対 応
苦情なし	—	—	—